



**Fast Retailing**  
**Sustainability Report 2020**

## CONTENTS

- 03 FAST RETAILING WAY
- 04 ファーストリテイリングについて
- 06 CEOメッセージ
- 08 サステナビリティステートメント
- 10 PEOPLE(人)
- 16 PLANET(地球環境)
- 22 COMMUNITY(地域社会)
- 30 正しい経営(ガバナンス)

## FAST RETAILING WAY

# 服を変え、 常識を変え、 世界を変えていく

### Mission

ファーストリテイリンググループは——

本当に良い服、今までにない新しい価値を持つ服を創造し、  
世界中のあらゆる人々に、良い服を着る喜び、幸せ、満足を提供します  
独自の企業活動を通じて人々の暮らしの充実に貢献し、  
社会との調和ある発展を目指します



# ファーストリテイリングについて

ファーストリテイリングは、ユニクロ、ジーユー、セオリーなど、さまざまなブランドを世界中で展開しています。  
 私たちがめざしているのは、人々の生活と社会を豊かにする服を、世界中のお客様にお届けすることです。  
 服の事業を通じて、より良い未来を実現していきます。

売上収益 ————— 2兆2,905億円  
 店舗数 ————— 3,589店舗  
 従業員数 ————— 137,281人  
 取引先縫製工場数 ————— 585工場

労働環境モニタリング対象工場

2019年8月31日現在



あらゆる人が気軽に楽しめる最新トレンドを発信



素材・デザインにこだわり、シンプルでエッジの効いたリアルクローズ



フランスのエスプリが効いた自然体で都会的なファッション



高品質な素材と独創性が特徴のランジェリーブランド



人々の生活をより豊かに、より快適にする究極の普段着「LifeWear」がコンセプト



最高級素材とこだわり抜かれたシルエットを展開



素材・着心地・着こなしにこだわった「最上質な日常着」を提案



完璧なフィット感に定評のあるプレミアム・デニムブランド



ソーシャルビジネスとしてバングラデシュで展開





世界中の個人や  
企業とつながり  
日々の事業を通じて  
より良い社会をつくる

### 私たちの仕事は世の中の役に立っているか

私は、強い危機感を覚えています。

世界は今、気候変動、資源の枯渇、人権問題、難民問題、貧富の格差拡大など深刻な問題が山積しています。それにもかかわらず、各国のエゴや政治的対立で有効な対策が採られていないのが現状です。世界各地で、かつてない規模の災害が頻繁に発生するなど人類の永続的な繁栄が危ぶまれる状況です。

このような時代、企業人にとって最も重要なのは、自らの事業を通じて社会を良くしていくという考え方です。利益を上げ、雇用を生み、適正に納税することは立派な社会貢献です。しかし、これからの企業に求められるのは、それだけではありません。

自分たちが販売している商品、提供しているサービスそのものが、世の中の役に立っているか。事業活動そのものが社会的な負荷を増大させるやり方になっていないか。これらのことを常に考え、自らの日常的な事業そのもので環境への負荷を減らし、社会の持続的な成長を実現する。そういう発想と具体的な行動が必要な時代になりました。

### お客様が出発点

こうした考え方を商品の形で体現したのがLifeWearです。LifeWearはいわば「究極の普段着」。無駄なものをそぎ落とし、シンプルで高品質、使う人の視点で考えられた、上質な生活を実現するための部品。人種、年齢、民族、宗教、性別や性的指向を超えた、MADE FOR ALL「あらゆる人のための服」。人々の生活をより豊かに、より快適に変える服です。

すべての出発点は「お客様の要望に応え、顧客を創造する」ことにあります。お客様を起点に、生産から物流、販売まですべてのプロセスの無駄をなくし、お客様にとって最も便利かつ効率的な方法、最適なタイミングで、お客様の求める商品をお届けする。資源を有効に使い、過剰な生産、余計な労働を生み出さない。1シーズンで終わらない、長く着られる服をつくる。これが私たちの挑戦していることです。

このような姿勢を明確にするために、私たちは「服のチカラを、社会のチカラに。」というサステナビリティステートメントを掲げています。私たちのビジネスを支

える「人 (People)」「地球環境 (Planet)」「地域社会 (Community)」の課題を解決し、新たな価値創造をめざします。事業戦略の中核として、これらの各領域で具体的な目標やコミットメントを定め、その達成に挑み続けます。環境問題、特に気候変動については、私たちにとって対応すべき課題でもあり、自らの行動を変革するチャンスでもあると認識しています。パリ協定にもとづいた目標設定にコミットし、自社の店舗およびサプライチェーン全体において継続的に温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。また循環型社会の実現に向けて、PET ボトル由来のリサイクル・ポリエステルを使用した商品の販売、お客様から不要になったダウン製品を回収し、ダウンをリサイクルする取り組みも開始しました。

### 世界中の個人、企業とつながる

私は事業を行う上で最も重要なことは使命感だと思います。自分は何のためにこの仕事をするのか。この仕事は誰のために役立つのか。常にそのことを考え、社会を良くするために働く。常に高い目標を立て、それに挑戦することで自らを鍛え、お客様とともに、社会とともに成長する。このような姿勢が不可欠です。

今、世界が直面している危機的状況を変えるには、国という枠組みを超え、世界中の個人と企業が連携し、行動することが必要です。私たちはこれからも優れた才能、先端のテクノロジーを持つ個人や企業と緊密につながり、LifeWearを通じて服に新しい価値を生み出し、サステナブルな社会の実現に努力していきます。

### 「服を変え、常識を変え、世界を変えていく」

これはファーストリテイリンググループのステートメントです。

まず、自ら変わり、行動し、世界を変える。

時代を超え、国境を越え、世界のあらゆる人々に服を着る喜び・幸せ・満足を提供し続けることで、より良い社会、持続可能な世界の実現に全力を尽くすことを約束します。

株式会社ファーストリテイリング  
代表取締役会長兼社長

柳井 正



# 服のチカラを、社会のチカラに。

よい服をつくり、よい服を売ることによって、世界をよい方向へ変えていくことができる。

私たちは、そう信じています。

よい服とは、シンプルで、上質で、長く使える性能を持ち、あらゆる人の暮らしを豊かにできる服。

自然との共生を考え、つくられる過程で革新的な技術を使い、地球に余計な負荷をかけない服。

健康と安全と人権がきちんと守られた環境で、いきいきと働く多様な人々の手でつくり届けられる服。

そして、よりよい社会を願うお客様と共に活動し、地域との共存共栄を目指していく。

私たちは、服のビジネスを通して、社会の持続的な発展に寄与できるよう、新たな基準をつくり、

不断の努力をもって進めていくことを約束します。

## 私たちが大切にしている3つのテーマ

私たちの事業を支える大切な3つのテーマ、「People(人)」「Planet(地球環境)」「Community(地域社会)」における課題を解決し、新たな価値創造をめざします。

## PEOPLE

私たちは事業活動を行うさまざまな国や地域において、

働く人たちの健康、安全、人権を守ります。

そして多様性を尊重することで、一人ひとりがいきいきと働き、

成長できる環境の実現をめざします。



## PLANET

自らの事業活動を通じて環境への負荷を減らし、

持続的な社会を実現します。

革新的な技術と、イノベーションを通じて、

新しい価値を持つ商品を生み出していきます。



## COMMUNITY

地域社会とのつながりを深め、

より良い社会を願うお客様とともに活動し、

社会との共存・共栄を実現します。



## 6つの重点領域

3つのテーマの課題解決に向け、経営戦略の一環として、サステナビリティ活動における6つの重点領域を特定しています。各領域でコミットメントや目標を掲げ、その達成に向けた活動を行っています。

※ファーストリテイリングのウェブサイトでは、6つの重点領域にそって活動を詳しく紹介しています(32ページ参照)

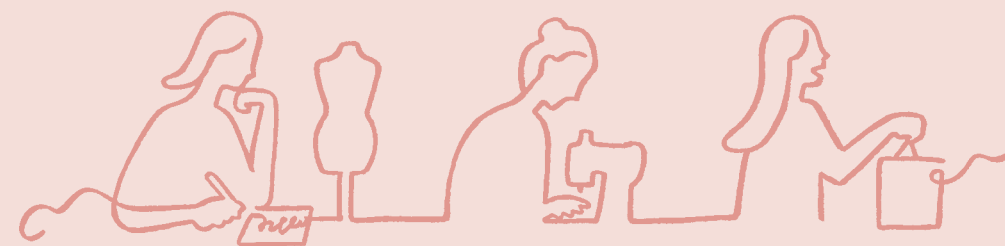


ユニクロの服を生産している、中国の取引先工場の従業員



# PEOPLE

ファーストリテイリングの事業は、「People(人)」の力で成り立っています。  
働く人たちの健康、安全、人権を守り、多様性を尊重することで、  
一人ひとりがいきいきと働き、成長できる環境を実現します。





## 女性の活躍で切り拓く、アパレル産業の未来



### UN Womenとのグローバルパートナーシップでめざすもの

アパレル産業では、服の企画・生産・販売などの現場で、多くの女性が働いています。女性が不平等な扱いを受けることなく、意欲的に仕事に取り組み、キャリアアップできる環境づくりを支援することは、重要課題の一つであり、今後のアパレル産業の成長の鍵となります。ファーストリテイリング（FR）は2019年6月、FRグループとサプライチェーンにおける女性従業員の一層の活躍をめざして、国連女性機関（UN Women）とのグローバルパートナーシップの締結を発表しました。UN Womenは、世界各地で政府や市民社会とともに女性と

女兒のために活動する国連機関です。主要生産拠点であるアジアの取引先工場において、教育プログラムを開発、展開し、工場で働く女性がより活躍できる環境をつくることで、エンパワーメントに取り組みます。中国、ベトナム、バングラデシュなどアジアには多くのFRの取引先縫製工場があります。そのなかでもバングラデシュは、衣料品の縫製が国の基幹産業の一つであり、輸出品の約8割を衣料品が占めています。多くの女性が働く縫製産業では、女性が技術を磨き、キャリアを形成するチャンスが多くあるため、この産業で自信を持って活躍する女性が増えることは、今後の産業の成長と地域社会の発展につながります。そこで、まずバングラデシュで管理職への昇進を視野に入れた女性のキャリアアップの機会を拡げるべく、2つの取引先工場でパイロットプログラムを開始し、各工場における教育プログラムの構築とトレーニングの実施を支援しています。



### キャリアと自信を得た女性たちが、地域社会の力になっていく



バングラデシュにおいて、FRがUN Womenと協同で提供する教育プログラムでは、最初に工場内で公募や推薦などで選ばれた従業員に対し、コミュニケーションをはじめとする基礎的なトレーニングを実施します。そのなかから、将来的に管理職になる可能性を持つ女性を選出し、リーダーシップを養うためのより高度なトレーニングへ進めるよう設計しています。今回パイロットプログラムに参加する2つの取引先工場は、服を生産するだけでなく、そこで働く従業員の生活、工場周辺の地域社会そのものを良くしていこうという強い意志を持って、事業に取り組んでいます。また、従業員教育の部門を持ち、研修施設も工場内に設置するなど、従業員の能力開発とキャリア形成に力を入れています。「女性のエンパワーメントは会社のミッションであり、工場の競争力の強化や地域社会の発展につながる」という考えから、今回のFRとUN Womenによる専門的なトレーニングを導入することで、既存の教育体制をより充実したものにできると期待を寄せています。

FRは、この2工場における女性のエンパワーメントの取り組みを通じて、女性の自立心とリーダーシップを育てることで、当事者である女性従業員だけではなく、取引先工場、FR、ひいては地域社会にとっても良い効果をもたらすことを確認していきます。また、中国やベトナムにおいても、取引先工場やUN Women、各地域の協力団体の知見と経験を得ながら対話を重ね、女性が真に活躍できる環境整備への支援を、サプライチェーン全体に拡げていく予定です。



### 女性の社会進出と自立を支援する環境づくりを

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントにおいて、企業は雇用者として女性の経済的な自立に深く関わるという点で、極めて大きな役割を担っています。例えば、バングラデシュでは、女性は経済的に自立する機会が限られる傾向にあり、アパレル産業で働く女性が増えることは、女性の経済的な役割に対する社会の認識を変えていくことにつながっています。工場に働く女性は、自国の社会的、経済的、文化的な壁を既に乗り越えたロールモデルであると言え、彼女たちのキャリア形成への支援を絶やさないことがとても重要です。FRには、継続的な支援のための環境整備を期待するとともに、FRのアパレル産業における豊富な経験と私たちの知見を合わせ、取り組んでいきます。



国連女性機関（UN Women）  
バングラデシュ事務所長  
石川 祥子



## 人権尊重の取り組み

### 人権方針

ファーストリテイリング (FR) は、自社の従業員やサプライチェーンで働く人など、私たちの事業の影響を受けるすべての人の人権を尊重し、心身の健康や安心・安全を確保することが、最重要責務の一つであると考えています。私たちは、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」をはじめとする国際基準に則り、「ファーストリテイリンググループ 人権方針」を定めています。人権方針では、特に私たちの事業活動が大きな影響を与えうる領域を「従業員」「サプライチェーン」「お客様」とし、問題が発生した場合の救済措置を含めた対処や社内の教育活動、社外とのコミュニケーションなど、人権尊重の取り組みを推進しています。

### 人権委員会

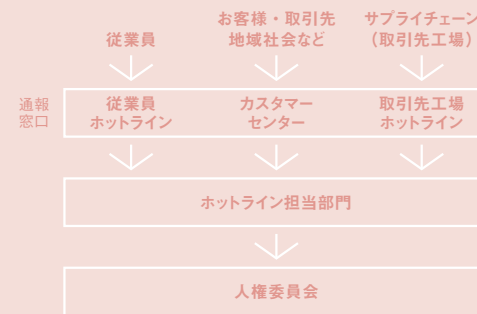
人権方針にもとづく人権尊重の責務が果たされ、その業務執行が適正に行われるように助言・監督を行う「人権委員会」を設置しています。

### 人権デューデリジェンス

自社とサプライチェーンで影響を受ける人の人権尊重のため、人権デューデリジェンス（事業活動における人権侵害リスク範囲の特定と評価、改善策の実行および教育の仕組み）の計画を策定し、継続的に実施しています。2019年度は、自社における人権リスクの特定を行いました。社内研修の実施や従業員の業務評価への組み込み、ホットライン体制と運用の強化などにより、課題への対処を進めています。

### 人権に関するホットラインと救済措置

FR では、人権に関する通報窓口（ホットラインなど）を設けています。通報があった場合、ホットライン担当部門が調査を行い、関連部署に是正を要請します。取引先工場の従業員が直接 FR に相談できるホットラインも設けており、問題があった場合は改善策や対応策を取引先工場に要請し、工場の人権問題や労働環境の改善につなげています。深刻な事象は人権委員会に上程され、救済措置を含む対応について助言・勧告が行われます。

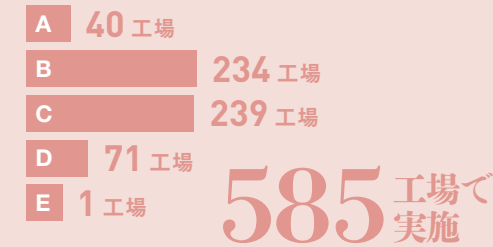


## サプライチェーンの人権・労働環境の尊重

### 取引先工場の労働環境モニタリング

FR は、取引先工場の従業員の人権や労働環境を守るために、取引先工場が遵守すべき項目を「生産パートナー向けのコードオブコンダクト」として定めています。また、その遵守状況を確認するために、労働環境モニタリングを実施しています。労働時間の管理、賃金の支払いなどの項目を第三者機関が定期的に監査し、評価結果を開示しています。評価結果を踏まえ、必要に応じて FR 従業員が直接訪問し、取引先工場とともに改善活動に取り組みます。

#### ▶ 労働環境モニタリングの結果 (ファーストリテイリンググループ、2019年度)



### ダイバーシティの推進

FR ではダイバーシティ推進チームが中心となり、多様性が尊重され、一人ひとりが最大限の能力を発揮できる職場環境の実現に向けて取り組んでいます。

#### 女性従業員の活躍支援

子育てとキャリアアップを両立するための人事制度改革や研修を実施し、社内啓発活動も行っています。2019年度の女性管理職比率は38.4%です。

#### 障がい者雇用

ユニクロ日本での雇用を皮切りに、2001年から障がい者雇用を推進しています。2019年の国内

### 責任ある雇用の推進

FR は 2019 年 9 月、国際移住機関 (IOM) とともに、国や地域を越境して働く移住労働者の採用および雇用の条件をより良く理解し、課題に対処するための新しい連携プロジェクトを開始しました。移住労働者を採用している日本、タイ、マレーシアの取引先工場の雇用慣行について調査し、その結果をもとに、具体的な対応策や研修などを実施します。

### 社会保障制度の充実を支援

アジアにおける社会保障の充実と労働環境整備のため、FR は 2019 年 9 月、国際労働機関 (ILO) とパートナーシップを締結しました。ILO によるアジア 7 カ国を対象とした労働市場と社会保障制度に関する調査、インドネシアでの雇用保険の導入促進および失業時のキャリア転換のためのトレーニングを行うプロジェクトを支援しています。

FR グループの障がい者雇用率は 5.02% と、日本の法定雇用率 (2.2%) を大幅に超えています。

#### 難民雇用

ユニクロ店舗では、7 カ国で 105 人 (2019 年 4 月時点) を雇用し、店長やトレーナー従業員向けに難民への理解を深める研修も行っています。

#### LGBT への取り組み

社内研修や「パートナーシップ登録制度」導入、有志従業員による「LGBT ネットワーク組織」の活動などを通じ、性的指向、性自認における多様性を尊重し、働きやすい職場づくりに努めています。



2017	2018	2019	ロンドンで開催されたユニクロの展覧会「The Art and Science of LifeWear」でのサステナビリティ展示
February UNIQLO discloses its core partner factory list	October Fast Retailing develops innovative washing process for jeans to cut water usage Fast Retailing becomes UN Global Compact signatory	November UNIQLO discloses its core fabric mills list	May Fast Retailing and UN Women sign global partnership July Fast Retailing announces plans to reduce single-use plastic up to 85% by the end 2020

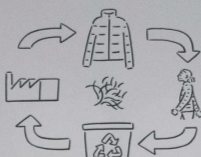
**Cotton:** Cotton production can be hard on the environment because it uses pesticides and large volumes of water. In response, we have partnered with the Better Cotton Initiative (BCI) since 2018. BCI is a non-government organization dedicated to the sustainable production of cotton. BCI promotes better cotton cultivation, educating farmers on the proper use of water, pesticides and other agricultural chemicals, and more. Farmers meeting standards set by BCI are certified as Better Cotton producers. In addition, we have committed to procuring all our cotton from sustainable sources by the end of 2025.



**Responsible Down:** We are committed to using materials that are sourced in sustainable, humane ways and to greater traceability of our down products. We do not source down or feathers from farms that practice live plucking or force feeding. We are currently working to ensure all our partner garment factories involved in the production of our down products will be RDS (Responsible Down Standard) certified by 2020.

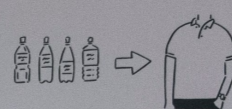
**Recycled Down:** conserving natural resources with Ultra Light Down.

In partnership with Toray, we developed new technology to incorporate recycled material, while maintaining our exceptional LifeWear quality standards. From autumn 2019, we will collect pre-loved Ultra Light Down products in Japan and send these to a special Toray facility. The down is extracted, cleaned and rejuvenated, then sent to partner factories into an as-new condition.



From here, it becomes part of a new down jacket and enters the circular apparel cycle. By developing machinery to extract the down, Toray has fully automated cutting, stirring, separating and recovery, for 50-fold the process capacity of manual process, greatly alleviating workloads.

**DRY-EX**



**Dry-EX:** transforming the world's plastic problem into a resource.

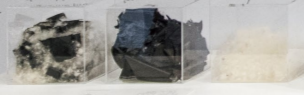
In partnership with Toray, we are transforming a serious world waste problem – the ubiquitous PET bottle – into a high-quality valuable resource for our popular Dry-EX range. Toray and partners have developed contaminant-filtering and spinning fibres. Toray's Recycling Identification System also enhances reliability by ensuring that fibres derived from plastic bottles are traceable. By reclaiming PET bottles and converting these into synthetic fabric, we preserve precious natural resources, and promote the re-use and recycling of waste. Our new Dry-EX fabric retains the same high-tech functions, lightness and moisture-wicking properties our customers love.

## SUSTAINABLE MATERIALS

Sourcing and creating high-quality, sustainable materials.

We practise ethical and responsible procurement to create our high-quality LifeWear apparel in a sustainable way. We embrace our environment stewardship, labour-rights and animal welfare responsibilities, and have a number of exciting projects underway.

**Wool:** We refuse to use Merino wool that originates from producers who practice mulesing. Mulesing is the practice of cutting away a section of wool-bearing skin from the breech of the sheep to prevent parasitic infection in the deep folds of the Merino sheep skin.



# PLANET

気候変動や資源の枯渇など、さまざまな環境問題が深刻化しています。  
ファーストリテイリングは自らの事業活動を通じて環境への負荷を減らし、持続可能な社会を実現します。  
そして革新的な技術と、イノベーションを通じて、新しい価値を持つ商品を生み出していきます。





## 高品質・高機能はそのままに、 地球にやさしい服を実現

### リサイクル素材の「ドライEX」ポロシャツが誕生

事業活動を通じて環境への負荷を減らし、持続可能な社会を実現するためには、商品づくりを通じた取り組みが重要です。ユニクロはこれまで、加工工程の水使用量を大幅に削減できる技術を採用したジーンズを販売したり、使い捨てプラスチックの過度な使用による環境への負荷削減のためにショッピングバッグや商品パッケージを見直すなど、さまざまなサステナビリティ活動に取り組んできました。

2020年春夏シーズンの商品企画においても、サステナビリティは大きなテーマでした。なかでも、限りある資源を利用して服の事業を行っているユニクロにとって、資源の循環や効率的利用は重要な課題です。資源の効率的な利用を究極まで高め、お客様の期待を超える品質で環境に配慮した商品を届けることは、私たちの大きな責任です。こうした課題意識から、ユニクロは2020年春夏シーズンより、回収PETボトルからつくられるリサイクル・ポリエステルを使用した「ドライEX」ポロシャツの販売を開始しました。

PETボトルをリサイクルした服は以前からありましたが、ユニクロの服としての品質や機能を維持し、適正

なコストで生産できるレベルではありませんでした。この課題を解決するため、素材開発で戦略的パートナーシップを結ぶ東レ株式会社と一つのチームとして取り組みました。

従来のリサイクル技術では、回収されたPETボトルへの異物混入により、特殊な断面を持つ繊維や極細繊維の生産は困難で、PETボトルの劣化などによる黄ばみの問題もあり、その克服が課題でした。今回開発した「ドライEX」ポロシャツの生産では、原料中の異物を除去するフィルタリング技術により、バージン原料同様に特殊な断面や多様な繊維の製造が可能となりました。

一方で、生産を開始すると、原料中の不純物が原因となる品質課題や糸切れなどの課題も発生しましたが、取引先である縫製工場や素材工場、東レと密に連携を取り、糸の生産段階まで遡って、一つひとつ課題を解決していきました。こうした取り組みを積み重ねた結果、品質・機能性を維持し、販売価格も上げず、環境負荷を減らすリサイクル・ポリエステルを使用した商品が実現したのです。

### お客様の声を聞き、商品を通じて持続可能な社会の実現に貢献する

これからの時代、お客様は服や食べ物を買うときには体に良く、地球や社会に配慮したものをより多く選ぶようになっていきます。今回開発した「ドライEX」ポロ

シャツで使用したリサイクル・

株式会社ユニクロ  
バリュークリエイション&プランニング部  
部長

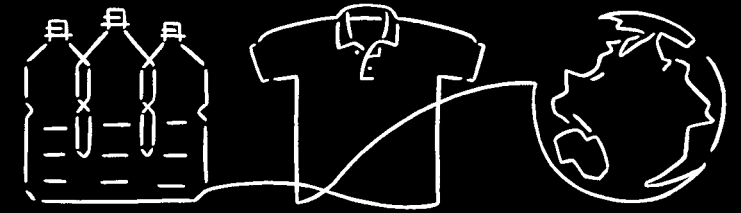
小森田 真也

ポリエステルは、ユニクロの服で使っているポリエステル商品全体のごく一部です。今後は、品質や機能、販売価格も担保しながら、対象商品を拡大していくチャレンジが必要です。

また、こうした取り組みを継続するために、「ドライEX」ポロシャツの環境配慮の側面をお客様に伝え、その価値を感じていただき、お客様の声を反映したサステナブルな商品をさらに増やしていくことが重要です。商品を通じて持続可能な社会の実現に貢献する、それが私たちの使命だと思います。

### 資源の有効活用

回収されたPETボトルを  
価値ある資源に変え、石油  
資源の使用削減に貢献



### 高機能素材を使用した 「ドライEX」シリーズ

生地肌面の特殊なアーチ構造により、高い吸汗速乾性を実現。汗によるムレやベタつきを防ぎ、心地良い肌触りを保つ高機能ウエア。アクティブから日常まで着用できる商品を幅広く展開している

### リサイクル素材「ドライEX」から始める快適とサステナブルの両立

着用時の「快適」はそのままに、さらに地球環境にも配慮した素材を使った「ドライEX」ポロシャツ。身近な服から未来の地球環境のために、気軽にできることを増やしていけるのは嬉しいですね。それこそ、持続可能な社会を実現する、持続可能な活動なのではないかと思っています。このPETボトルからつくられた「ドライEX」をはじめとして、これからも東レはさらなる技術開発に取り組み、ユニクロとともに快適でサステナブルな「LifeWear」をお客様へお届けできればと思います。

東レ株式会社  
GO事業部  
部長  
石川 元一





## 環境負荷低減への取り組み

ファーストリテイリング (FR) は、自社とサプライチェーン全体であらゆる無駄をなくし、循環型社会の実現と資源効率の最大化を追求していきます。地球環境の負荷の低減に貢献すると同時に、革新的な技術を積極的に活用することで、持続可能な事業を構築します。

気候変動への対応については、パリ協定に即した温室効果ガス排出量の削減目標である SBT (Science-Based Targets) を策定することにコミットするなど、取り組みを強化しています。

### ▶ 「環境方針」で定める5つの注力領域

- 気候変動への対応
- エネルギー効率の向上
- 水資源の管理
- 廃棄物管理と資源効率の向上
- 化学物質管理

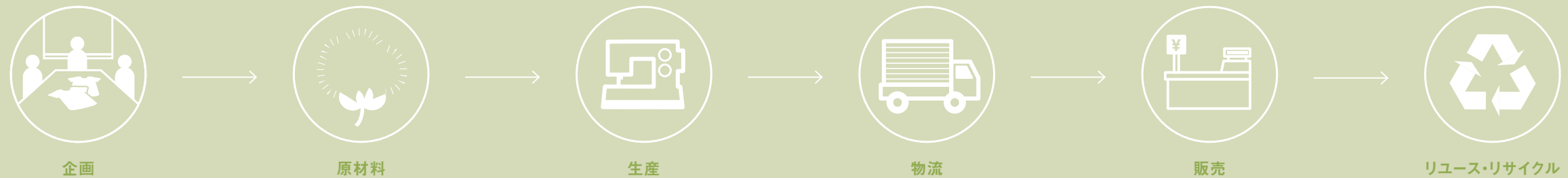


### 使い捨てプラスチック使用量の削減

ショッピングバッグを環境配慮型素材に切り替えるとともに、お客様のエコバッグの利用を促進することで使用量の削減を推進。商品パッケージは使い捨てプラスチックを削減し、代替素材に順次切り替え。

### 店舗照明のLED化

ユニクロ日本では店舗照明をLED化し、2019年度は温室効果ガス排出量を31.6%削減(2013年度比、単位面積あたり)。世界各地のユニクロやジーユーでもLED化を推進。



### 責任ある原材料調達

綿農家に対して水や農薬の使用についての教育などを行う NGO「ベター・コットン・イニシアティブ」への加盟や、植物や木材を原材料とするレーヨンなどのセルロース繊維のトレーサビリティを確保する取り組みを推進。

### リサイクル素材の活用

資源の有効活用のため、PET ボトルリサイクル素材を使用した「ドライEX」ポロシャツを開発。

### マイクロプラスチックへの取り組み

「マイクロファイバーコンソーシアム」や「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」など、業界を越えてプラスチックによる海洋汚染の解決をめざす活動に参画。

### 水とエネルギー使用量の削減

ユニクロの主要な素材工場を対象に「素材工場環境プログラム」を実施し、エネルギー・水の使用量削減の取り組みを推進。

### 加工工程で水使用量を削減

ジーンズの加工工程において水の使用量を削減する取り組みを、FR グループのすべてのブランドで推進。

### 化学物質の管理

業界団体「ZDHC グループ」への加盟などを通じて、商品や生産プロセスにおける有害化学物質の排出ゼロに向けた取り組みを推進。

### 物流効率の向上

折り畳みコンテナの活用により、商品を入れる新規段ボールを大幅に削減するとともに、段ボールの種類も減らして積載率を向上。さらに輸送や配送時にコンテナやトラックを集約させることで、輸送効率の向上を図る。



### ユニクロ 川越店がLEED 認証を取得

建物と敷地利用における国際的な環境性能評価システム「LEED」の既存建物の運用・保守分野で、ユニクロ 川越店がゴールド認証を取得。

### 全商品リサイクル活動

世界各地のユニクロとジーユーの店舗で、お客様から不要になった服を回収し、服を必要とする人への寄贈や、廃棄物固形燃料として再資源化する取り組みを実施。

### 回収したダウンの有効活用

資源の有効活用のため、ユニクロ日本の店舗で、お客様から不要になったユニクロのダウン製品を回収し、ダウンを再利用する取り組みを開始。



# COMMUNITY

ファーストリテイリングは地域社会とのつながりを深め、  
より良い社会を願うお客様とともに活動し、社会との共存・共栄を実現します。





## 世界の難民のために、 店舗と地域がつながり、服を届ける



兵庫県立三木北高等学校(兵庫県)

### ユニクロとジーユーの「届けよう、服のチカラ」プロジェクト」

ファーストリテイリングは、深刻化する難民問題の解決に寄与するため、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）とのグローバルパートナーシップのもと、難民支援活動に取り組んでいます。そしてその一環として、日本のユニクロとジーユーでは「届けよう、服のチカラ」プロジェクトを展開しています。これは、2006年に開始した「全商品リサイクル活動」を教育機関と連携して行うことで、より多くの方に活動の趣旨を理解してもらい、一枚でも多くの服を難民に届けることを目的としたもので、ユニクロ 三木店も兵庫県立三木北高等学校とともに2016年から参加しています。

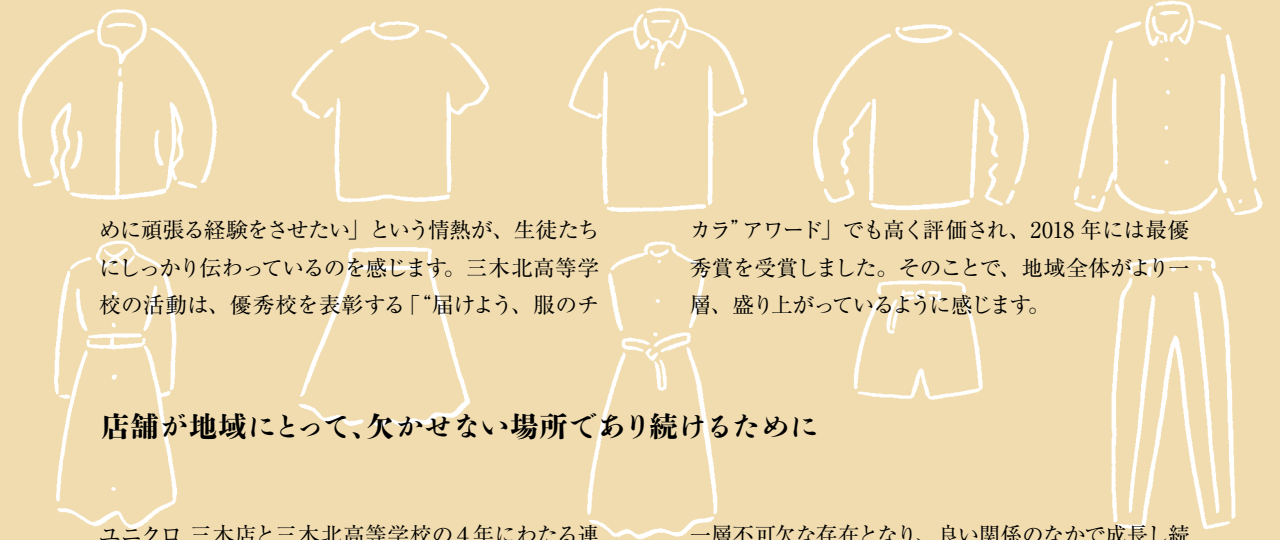
このプロジェクトでは、まず従業員が講師となって難民の現状や服の役割についての出張授業を実施した後、児童・生徒が自主的に校内・地域に子ども服の回収を呼びかけて集め、難民に届けています。2013年の開始以降、規模は年々拡大しており、2019年は、442校・約40,000人の児童・生徒が参加しました。集まった子ども服は、今後、コンゴ民主共和国などの難民キャンプに届ける予定です。

私たちが行っている三木北高等学校での出張授業では、難民が増え続け、服が不足している現状や、ユニクロが届ける服がどのように役立っているのかを教えています。講義を受けた生徒たちは、国際交流イベントやFMラジオに出演したり、保育園で服の大切さを伝えるオリジナルの劇を披露したり、公民館に自分たちの手づくり回収ボックスを設置してもらうなど、積極的に服の回収を呼びかけていました。このように生徒たちと地域が連携した結果、2019年は段ボール77箱分の服を集めることができたのです。

生徒たちの熱心な活動からは、先生方の「誰かのた



ユニクロ  
三木店 店長  
**宮城 昭**  
※2019年8月時点



めに頑張る経験をさせたい」という情熱が、生徒たちにしっかり伝わっているのを感じます。三木北高等学校の活動は、優秀校を表彰する「届けよう、服のチ

カラ」アワード」でも高く評価され、2018年には最優秀賞を受賞しました。そのことで、地域全体がより一層、盛り上がっているように感じます。

### 店舗が地域にとって、欠かせない場所であり続けるために

ユニクロ 三木店と三木北高等学校の4年にわたる連携で、難民のために服を集めるという活動が、地域にどんどん浸透しているのを実感します。地域とユニクロの良い関係を継続できるよう、そして私が異動した後も生徒たちに毎年良い講義ができるよう、2年目の出張授業からは、私と一緒にスタッフも講義を行うなど、店舗一丸となって取り組んでいます。スタッフにとっても、ユニクロで働く喜びや地域とつながる重要性を実感する良い機会になっていると思います。

このプロジェクトを通じて、ユニクロ 三木店が三木北高等学校とつながり、地域全体で社会課題の解決に貢献していることは私の誇りです。地域が力を入れていくことに参画することで、店舗は地域にとってより

一層不可欠な存在となり、良い関係のなかで成長し続けることができると思います。これからも取り組みへの参加を続けたいと思います。



館山市立北条小学校(千葉県)



世田谷区立烏山北小学校(東京都)

### 全商品リサイクル活動

ユニクロとジーユーは、22の国と地域の店舗で、お客様のもとで不要になった服を回収し、UNHCRや各地NGOとともに、難民などの服を必要としている人々に届けています。支援衣料に適さない服は、廃棄物固形燃料料としてリサイクルされています。



**72**の国と地域に  
寄贈した服 **約3,657**万点

※2019年8月末現在

### ユニクロとの交流から生まれた新しいつながり

生徒たちになじみがあるユニクロ 三木店の方から、身近な「服」を切り口に、少し遠いけれど大切な難民や社会問題の話をしていただいたのは、とても良いアプローチでした。また服の回収活動を通じて、生徒と地域の人々につながりが生まれ、生徒がその大切さを実感したことは、本当に良かったと思います。毎年、地域の方から学校に何回もお問い合わせをいただくほど、地域にこの活動が浸透し、良い形で連携し始めています。今後もユニクロと一緒に、地域全体で難民に届ける服を集め、生徒たちに社会課題の解決に貢献する経験を積み重ねたいと思っています。



兵庫県立三木北高等学校  
教諭  
**河合 いずみ**





## お客様や地域とともにつくるサステナビリティ



### サステナビリティ意識の高いデンマークにおける新たな挑戦

ユニクロは2019年4月、デンマーク1号店となるストロイエ通り店をコペンハーゲンにオープンしました。国連の関連団体が実施する「世界幸福度ランキング」で常に上位となっているデンマーク。2050年までに100%脱化石燃料を実現するという高い目標を掲げるなど、国をあげたサステナビリティの取り組みは世界をリードしています。人々のライフスタイルも、地球環境を守りながら、暮らしを豊かにするための創意工夫に満ち、サステナブルな買い物をすること、倫理的な企

業の商品を買うことを大切にしています。私たちユニクロ

にとって、出店する地域で暮らす人々のライフスタイルを理解し、その地域の歴史や文化を学び、事業を通じて地域の課題の解決に貢献することが、事業の出発点だと考えています。

デンマークでは、健康増進や環境配慮の観点から、通勤や通学など街中の移動には自転車の利用が推奨されており、自転車専用レーンや駐輪場がいたるところにあります。人々の思いに共感し、ともにサステナビリティの取り組みを推進するために、人気のデンマークブランドの自転車とユニクロのスタイリングを組み合わせ、店内やウィンドウで展示しています。

デンマークの人々の環境意識はとて高く、例えば、多くのお客様はエコバッグを常に持ち歩いています。9月に発売したユニクロのエコバッグは初回販売分が3日で完売しました。また「商品の包装材はサステナブルな素材なのか?」といった質問も多く、加工工程で水の使用量を削減したジーンズは人気商品です。こうしたお客様の期待にお応えしていく必要があります。



デンマークユニクロ  
ストロイエ通り店 セネラルマネジャー  
**Guillaume Theroux**  
(ギヨーム・テルー)

### パートナーやお客様とともに、社会の課題を解決する

地域の課題の解決に貢献していくことは、事業を継続していく上でとても重要なことです。地域の活性化なくしては、私たちの事業の発展もありえないからです。デンマークに初出店するにあたって、私や店舗スタッフは、地域の社会事情を調査し、市や団体との対話を重ねました。幸福度が高いとされるデンマークでも社会課題が存在し、ホームレスやジェンダーの問題など、困難を抱えて生きている人々が存在することを改めて知りました。こうした課題解決に貢献するため、ユニクロは2つのパートナーと協働しています。

一つはホームレスを支援する団体「メンデネズ・イエム」で、「全商品リサイクル活動」でお客様からお預かりした服を寄贈しています。ユニクロの服はシンプルなデザインで機能性も高いので、例えば、就職活動で着るシャツや雨風に強い上着などが喜ばれています。もう一つは女性を支援する団体「ダナー」が運営するドメスティックバイオレンス (DV) 被害女性などが暮らすシェルターで、服の寄贈や従業員のボランティア活動を行っています。シェルター内の衣装室にユニクロの服を店舗のように並べ、まるで買いものを楽しむように必要な服を選べる工夫をするなど、女性たちが心身の健康を取り戻し、再び社会で自立していく支援をしています。

ユニクロがお客様や地域の団体とともに協力し合うことは、世界を良い方向に変えていくための第一歩です。ユニクロの店舗が、サステナブルな商品やサービスを提供し、より良い社会を願うお客様や地域社会と、私たちがつながる場所であり続けることで、地域の未来に貢献していきたいと思っています。



デンマークの街中でよく見かける、子どもや荷物をのせて走る自転車。地元で人気の自転車ブランドとのコラボレーションで制作し、店内に展示している



写真上:ダナーのシェルター内にある衣装室  
写真下:ユニクロ店内のジーンズコーナー



ダナー  
ディレクター  
**Lisbeth Jessen**  
(リスベス・イエッセン)

### 女性たちにとって大切な服のチカラ

私たちは女性への暴力をなくし、DV被害を受けた女性が社会とのつながりを取り戻すために、シェルターの運営などさまざまな活動をしています。女性たちは着の身着のまま、心に傷を負って逃れてきます。服で暴力をなくすことはできませんが、ユニクロの従業員も参加してつくった衣装室で、自分で服を選ぶ女性たちは、心が少しずつ明るくなり、もとの生活を取り戻そうという気持ちになります。また、ユニクロは店舗やSNSで多くの市民とつながっていますので、支援活動の情報発信や啓発活動の面でも、ユニクロとの連携を期待しています。



中国 少数民族支援  
ミャオ族刺繍プロジェクト



中国ユニクロは2019年7月、宋慶齡基金会と協働し、お客様が少数民族ミャオ族の伝統文化と優れた刺繍に親しむキャンペーンを実施しました。「全商品リサイクル活動」に服を提供されたお客様へ、ミャオ族の刺繍職人がつくったオリジナルワッペンをお渡しするもので、ミャオ族への雇用機会の提供と、失われつつある伝統文化の再生に貢献しています。



フィリピン 子ども支援  
「ユニクロ クラスルーム」の設立



フィリピンユニクロは2019年2月、教育機会を得ることが困難な貧困地域に暮らす子どもたちのために、「ユニクロ クラスルーム」の建設を支援しました。AGAPP財団が幼稚園として活用し、園児が快適に過ごせる環境の提供と成長のサポートに貢献しています。



マレーシア 難民支援  
Tシャツデザインプロジェクト



マレーシアユニクロは、難民の学生が通う「Fugee School」とTシャツデザインのワークショップを開催しました。2018年9月には、選ばれた優秀作品6点をデザインしたTシャツを商品化し、ユニクロのオンラインストアで販売。利益のすべてを「Fugee School」に寄付しました。寄付金は、難民の子どもたちへの教育機会の提供と、学校施設の整備に役立てられています。



米国 女性支援  
Theory Be Heard



ニューヨークを拠点とするセオリーは、女性をエンパワーメントするプログラム「Be Heard」を展開しています。女性起業家などを招いたトークセッションを世界各地の店舗で開催し、お客様がロールモデルとの対話を通じてリーダーシップや起業家精神に触れ、自身の可能性を広げることを目的としています。2019年度は米国内でトークセッションを3回開催し、17人の女性リーダーを招きました。



日本 女性支援  
Closet For Needs



従業員から回収したセオリーとブラステの服を、ドメスティック・バイオレンス被害から逃れている女性や自立援助ホームで暮らす女性に寄贈しています。寄贈の際には、スタッフによる接客も楽しんでいただきながら、女性が自信を取り戻し、自立していけるように支援をしています。2015年の開始から2019年8月末までに、約2,000人の女性に約9,000点の服を寄贈しました。



米国 ホームレスの子ども支援  
J BRAND 手づくりのクマのぬいぐるみをプレゼント



J Brandの従業員がクマのぬいぐるみを手づくりし、ホームレス支援団体「School on Wheels」を通じて、子どもたちに寄贈しています。ぬいぐるみは商品の生産時に出る端切れを活用しているため、デザインはバラエティに富み、子どもたちはお気に入りの1点を選んで楽しんでいます。



Bangladesh ソーシャルビジネス  
首都ダッカに17店舗を展開



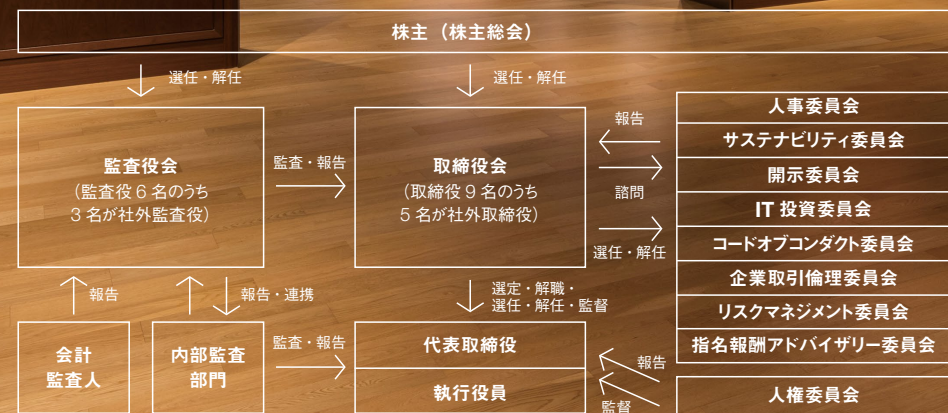
Bangladeshの繊維産業の発展と社会課題の解決をめざし、「グラミンユニクロ」はソーシャルビジネスを展開しています。商品の企画から生産、販売までの工程を Bangladeshで行い、すべての収益は事業に再投資されています。繊細な刺繍が人気の伝統衣装は、取引先工場の労働環境整備の支援を通じて、生産拡大とともに、刺繍職人に働く機会を提供しています。また自社従業員の女性比率の拡大を目標に掲げるなど、女性がキャリアを形成し、経済的に自立できる環境づくりに努めています。





# 正しい経営 (ガバナンス)

▶ コーポレート・ガバナンス体制 (2019年11月29日現在)



ファーストリテイリング(FR)は、迅速で透明性のある経営体制をめざしています。これを実現するために、取締役会の機能や内部統制の仕組みの強化を通じて、実効性のあるコーポレート・ガバナンス<sup>(※)</sup>体制の構築に努めています。

※：会社がそれぞれのステークホルダーの立場を踏まえた上で、透明・公正で迅速・果断な意思決定を行うための仕組み

## 取締役会の機能の強化

取締役会は、経営の基本方針および経営上の重要事項について意思決定を行い、代表取締役や執行役員業務執行を監督するための機関です。

### 意思決定機能

事業活動のグローバル化や事業環境の複雑化に伴い、幅広い課題に対し、迅速に意思決定を行う必要があります。取締役会の機能を補完するために各種委員会(左ページ「コーポレート・ガバナンス体制」参照)を設け、迅速でオープンな討議・決定を行っています。

#### ● 人権委員会

人権方針にもとづく人権尊重の責務が果たされ、業務が適正に行われるように、各部門への助言や教育啓発活動を行っています。2019年度は、差別的な広告表現を防止するためのマーケティング部門への助言や、取引先工場の従業員が直接FRのホットラインに問い合わせた案件の対応への助言などを行いました。

#### ● 指名報酬アドバイザー委員会

取締役および監査役候補の要件・指名方針、取締役の報酬の決定方針、最高経営責任者(CEO)の要件、サクセッションプランなどを討議するために、2019年8月に設置しました。

#### ● サステナビリティ委員会

環境保全、人権尊重の取り組み、社会貢献活動、コンプライアンス、ダイバーシティなど、サステナビリティの観点から企業活動の方向性や方針を決定しています。2019年度は、プラスチック問題をはじめとする環境問題など、さまざまな社会課題に対する取り組みについて、討議を行いました。

### 監督機能

9人の取締役のうち5人を社外取締役とすることで、取締役会の独立性を高め、監督機能を強化しています。社外取締役は、グローバル企業のトップとして経営手腕を発揮してきた方、M&A分野や財務経営の専門性が高い方など、幅広い分野の人材で構成することで、客観的な意見が経営の重要な意思決定に反映されています。

## 内部統制の仕組みの強化

コンプライアンスの取り組みは、内部統制の一環として、健全な企業活動の土台となるものです。FRは、従業員の行動規範である「ファーストリテイリンググループ コードオブコンダクト」を制定し、確認・理解のための従業員教育を実施しています。全従業員が毎年Eラーニングを受けることで、行動規範の浸透・遵守の徹底を図っています。

株式会社ファーストリテイリング「正しい経営 (ガバナンス)」

コーポレート・ガバナンスや内部統制などの詳細情報、コーポレートガバナンスに関する報告書などを掲載しています

[www.fastretailing.com/jp/about/governance/](http://www.fastretailing.com/jp/about/governance/)



## Fast Retailing Sustainability Report 2020

### 編集方針

株式会社ファーストリテイリング発行の本冊子は、ファーストリテイリンググループの事業活動に伴う社会的責任を踏まえ、企業姿勢とサステナビリティ活動をわかりやすくまとめたものです。詳細情報については、ファーストリテイリングのウェブサイトをご覧ください

### 報告対象範囲

原則としてファーストリテイリンググループ（株式会社ファーストリテイリングおよび国内・海外事業会社）を対象とし、異なる場合は個別に対象範囲を記載

### 報告対象期間

2018年9月から2019年8月

※本冊子掲載数値は、特に記載のない限り、会計年度での実績を開示

※特に重要な報告事項は、可能な範囲での最新情報を開示

### 発行

2020年1月（次回2021年1月予定）

## 情報開示について

ファーストリテイリンググループでは、自社のウェブサイトにもサステナビリティ活動や企業情報、IR情報などの詳細情報を掲載し、さまざまなステークホルダーの皆さまへ情報を発信しています

株式会社ファーストリテイリング「サステナビリティ」

[www.fastretailing.com/jp/sustainability/](http://www.fastretailing.com/jp/sustainability/)

### 免責事項

本冊子には、株式会社ファーストリテイリングとそのグループ会社の過去と現在の事実だけでなく、発行時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略にもとづいた将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報にもとづいた仮定なしの判断であり、諸条件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります





